

主な内容

1. ロボット支援手術で患者さんの負担を軽く
千葉大学医学部附属病院 理念
2. 「認知症疾患医療センター」、「高齢社会医療政策研究部」発足
患者満足度調査を実施しました
患者さんの声
3. フレッシュVOICES
「ミニニュース」キャラクターグッズの販売を始めました/
ブラック・ジャックセミナーで小学生が医師体験/白衣式
-いよいよ臨床実習へ
4. 「フリートーク」麻酔・疼痛・緩和医療科 教授 磯野 史朗
「トピックス」喫煙と健康被害
「ちばをてくてく」◎千葉ポートタワー



千葉大学医学部附属病院 〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

ホームページで「病院ニュース」のバックナンバーをご覧いただけます。

ロボット支援手術で患者さんの負担を軽く

出血や痛みが少なく、回復も早く



フロリダ病院ニコルソンセンターより研修コースの修了証をいただきました



内視鏡下手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」

医師が画面を見ながら(左奥)、ロボット(右)を操作します。

ロボット支援手術とは？

ロボット支援手術は、ロボットが自分で考えて行う手術ではありません。医師が三次元(3D)カメラの画像を見ながら遠隔操作して行う手術です。

千葉大学病院が平成23年12月に導入したのは、「ダ・ヴィンチ」という名のロボット(機械)を用いて行う内視鏡手術のひとつです。腹部にあけた小さな穴から、手指の形に似た鉗子(かんし)を挿入してあたかもお腹のなかに手を入れていられるように操作します。自在に拡大できるカメラを見ながら、より複雑な動きができる「手」を操作するので、安全で繊細な手術が可能となりました。

前立腺がん手術が保険適用に

本年の4月より、前立腺がん手術が他の手術に先駆けて保険適用となりました。本院では、平成24年2月から手術をはじめ、順調に推移しています。出血や痛みが少なく、術後の回復も早く、早期退院が可能で、患者さんにとっても安全で負担が軽くなると期待されます。

今後、子宮がんなど前立腺がん以外の手術にも、ロボット手術が導入されていくものと思われます。ロボット手術の拡大にそなえ、国内外の先進施設に積極的に医師・看護師を派遣して技術研修に努めています。3月には9名をアメリカのオーランド(フロリダ病院ニコルソンセンター)・ロボット手術研修所に派遣しました。また、院内の研修センターにロボット手術のシミュレーター(トレーニング専用機)も導入しました。

今後モ安全性を確認しながら、手術の拡大・普及に努めてまいります。

(婦人科・周産期母性科 教授 生水真紀夫)

いのはな コラム

私のリラックスタイム

趣味の一つで自転車を楽しんでいる私は、毎朝の通勤時間が仕事前のリラックスタイムとなっています。

都川沿いの道から、病院を裏から周りこむように一息に登る急な坂道があります。通勤でも自転車に乗る私は、毎日この坂道を登っています。

春には坂道が桜のトンネルとなり、顔を上げて坂の先を見ると見事に満開となった土手が美しく、クラブ活動の学生の声が大きく響いています。イチヨウが黄色く坂道を覆う秋には、空気が冷たくなってきて、風が清々しく感じます。



毎朝、一日の仕事の勢いをつけるように、ペダルに力を入れて坂道を登っています。

(ME機器管理センター・臨床工学技士 古川 豊)

患者さんへ

本院は、患者中心の質の高い医療を目指すとともに、次世代を担う優れた医療人を育成する医療機関であります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

本院の理念

人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努めます。

本院の基本方針

- 患者の意思を尊重した安心・安全な医療を提供します。
- 先進医療の開発と実践を目指します。
- 社会・地域医療へ貢献します。
- 人間性豊かな優れた医療人を育成します。

本院における患者の権利と義務

- 【権利】
- 人権が尊重されます。
 - 公平で良質、かつ安全な医療を受けることができます。
 - プライバシーが保護されます。
 - 診断・治療法等に関して、十分な情報提供と説明を受けてうえで、自らの意思で決定できます。
 - 臨床研究に関しては十分な説明を受けたうえで、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。
- 【義務】
- 良質な医療を実現するため、自身の健康状態に関する正確な情報を提供してください。
 - 良質な医療を受けるため、定められた諸規則を守ってください。
 - 医療者の育成にご理解のうえ、積極的に医療に参加し協力してください。

平成16年5月17日 制定
平成23年12月12日 一部改定

急速に進む高齢化社会を見据えて

「認知症疾患医療センター」、「高齢社会医療政策研究部」を発足。地域連携をはかり、千葉県の医療の質向上に努めてまいります。

認知症疾患医療センター

(地域の連携を促進)



多職種で構成される認知症疾患医療センターのスタッフ

「認知症疾患医療センター」は、認知症の患者さんとその家族が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、国の指針により政令指定都市や県が設置する認知症医療の中核施設のことです。千葉市の委託により、4月から千葉大学病院内に同センターが開設されました。神経内科・精神科の医師、看護師(保健師)、精神保健福祉士、臨床心理士、など多職種からなるチームが運営に携わります。

センターの主な活動は、①認知症の正確な診断(もの忘れ外来・毎週月曜日午後)と、②教育活動や情報交換を含めた地域の連携システムの構築です。それにより、認知症を診てくれる、患者さんに適した地域の医療機関の紹介も行っています。

桑原 聡(認知症疾患医療センター・センター長)

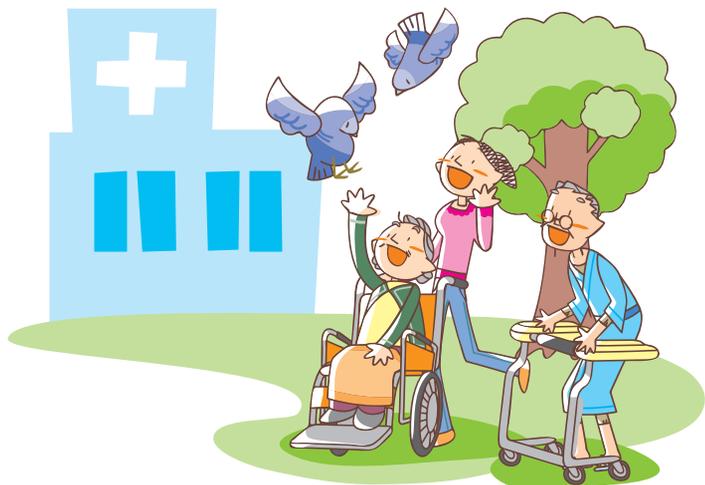
高齢社会医療政策研究部

(千葉県に政策を提言)

千葉県では今後15年の間に世界史上空前の急速な高齢化が起ります。2030年には千葉市の入院が必要な重症患者だけでも、今の1.6倍の入院ベッドが必要になります。このような時代に対応できるようにするためには、設備や医療資源、医療費から考えても、従来の医療を拡張することだけでは解決できません。

未来の医療状況を綿密・正確に分析し、医療システムをどのように転換するか、そのための実際的な解決策を提言するシンクタンクとして、県の援助を受けて「高齢社会医療政策研究部」が設置され、4月から早速活動が始まっています。

(高齢社会医療政策研究部・部長 高林克己)



患者満足度調査を実施しました

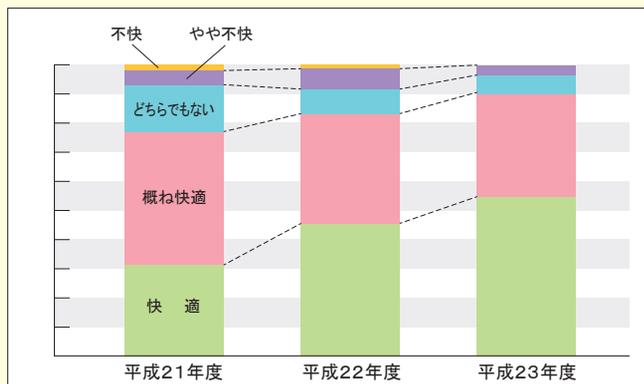


千葉大学病院では、毎年、入院・外来患者満足度調査を行っています。今年は1月23日～27日に実施しました。

病棟改修工事や病室内でのプライバシー配慮などの療養環境向上、患者さんのご指摘による改善もあり、ほとんどの質問で概ね満足の回答を得ることができました。今後も、みなさんに快適に利用していただける病院を目指していきたいと思えます。

調査にご協力いただきありがとうございました。

●病棟内に快適性は感じられましたか？



患者さんの声



皆さまからこんな声が届きました。患者さんの声にお答えします。



◎ご要望

Q 診察が終り、会計で手持ちの書類(検体検査用紙)を渡した際、突き返すような対応をされてムツとした。もう少し常識のある対応ができないのか。待たされたことも手伝わって非常に気分が悪い。

A 会計窓口の対応については、不快な思いをさせてしまい、大変申し訳ございませんでした。ご指摘を真摯に受け止めました。また、接遇研修による教育を実施し、適切な接遇態度で接するよう努めてまいります。何卒ご理解の程、お願いいたします。この度は、貴重なご指摘をありがとうございました。

◎お便り

放射線治療というと何だか怖い気もしましたが、スタッフの方の優しく丁寧な説明と、台の上で横になった時に、ちよつとした動作でも「腕を動かします」、「足を上げます」、「腰をずらします」などと、声をかけて体に触られることで、安心して治療を受けることができました。ありがとうございました。

(((フレッシュャーズVOICE)))

今年、千葉大学病院には、研修医38名、看護師100名を含め473名が、新しく病院スタッフに加わりました。3名のフレッシュャーズに、仕事について話をききました。



左から梅本さん、土井さん、有里医師

全人的な医療ができる医師をめざして

研修医 有里 裕生

幼い頃から鹿児島で母と祖母に育てられたのですが、母が内科医だったんです。患者さんの小さなトラブルにもていねいに対応する母の姿を見てきたので、自然に医師をめざしていました。

大学病院の研修というところ、診察より雑用が多いと思われがちですが、千葉大学病院の先生たちは、研修医の様子を見ていてくれ、診療を任せてくれるんですね。皆さん勉強熱心で、最新の医療を取り込んでベストな診療をしようという意志が貫かれているのを感じます。医師としての態度が「カッコイイ先生」がたくさんいるんです。今はそんな先輩からたくさん学ぶことを喜び、患者さんの問題を適切に把握して、全人的な医療ができる医師になりたい。そのためには、患者さんが訴えていることをキャッチできるアンテナを広げていかなければならないと考えています。

患者さんのために頑張りたい

手術部 看護師 梅本 真史

人と接することが好きで、小さい頃から、人のためになる仕事をしたいと思い、看護師の仕事が向いているのではと、この道に進みました。大学病院をいくつか見学したのですが、教育システムが充実しているところに惹かれて、千葉大学病院を志望しました。

手術部では、オペの機械出し、手術中の患者さんの状態を見ること、記録をすることが、看護師の主な仕事です。手術の前には、患者さんに手術の説明をする術前訪問に行くのですが、手術という大きなイベントを控える患者さんは、強い緊張状態にあり、看護師の接し方や声かけの仕方が重要なんだなと感じています。

手術部看護師という専門性を極めながら、患者さんのために何が出来るんだろうということを追求め、いずれは大きな意味で医療に貢献したいと思っています。

患者さんに信頼される看護師に

神経内科・呼吸器内科 看護師 土井 美里

小さい頃は身体が弱くて小児科にかかっていたのですが、看護師さんがやさしくて、おかげで病院やドクターを嫌いになることもありませんでした。私もそんな、やさしい看護師になりたいと思います、この仕事を選びました。

千葉大出身で、今の科には実習からお世話になってます。千葉大学病院でありがたいのが、私たち新人に対するメンタルヘルスケアがしっかりしていること。やさしくフォローしてくださるので、安心して仕事に取り組んでいます。それは私たちの成長に期待していることだと思っているので、技術や知識をもっと伸ばし、先輩たちのように、自分で考えて、すばやい判断ができて、すぐに対応できるような看護師になりたいですね。今はまだ与えられたことで精いっぱいですが、患者さんに信頼される看護師になれるよう、がんばって勉強していきます。

mini news

キャラクターグッズの販売を始めました

病院キャラクターの絵本が、小児病棟の子どもたちや病院職員に好評を得ていることから、絵本の第二弾「ぼくらがみつけた たからもの」とキャラクターグッズの販売を始めました。院内の3階売店で販売しています。(地下1階は一部商品、ローソンは絵本のみ販売)



絵本とグッズの一部



電気メス体験をする小学生たち

ブラック・ジャックセミナーで小学生が医師体験

小学生に実際の医療現場に入って、外科医と同じ体験をしてもらいました。手術室で本物の手術着に着替え、鶏肉を使って電気メスで切開、皮膚縫合・糸結紮(けっさつ)、内視鏡手術などの体験をしました。参加した子供たちは、「説明が分かりやすくて、体験が楽しかった」「医学に興味があったので体験できて良かった」と好評でした。

白衣式—いよいよ臨床実習へ

白衣式は、入学後4年間にわたる臨床前教育を受けてきた医学生が、いよいよ医師となるための本格的なトレーニング(臨床実習)を開始することを祝福すると共に、医学生自身が医療者の一員(スチューデント・ドクター)として、社会に貢献する立場となる自覚を新たにしました。医療者としてのこれからの心構えを促す重要な式典であり、教授一同から学生一人ひとりに白衣が授与されました。



厳粛な中で行われた白衣授与

看護師・助産師 募集

Heart, Skill & Responsibility

平成25年度新採用
中途採用
同時募集

心と技と責任。

その重さを知っている人。
それが、千葉大学医学部附属病院の看護師です。

- 資格: 平成25年3月卒業見込みで、看護師・助産師免許取得見込みの方又はすでに免許を取得されている方
- 待遇: 当院規定により優遇します
- 応募: 履歴書・看護師等の免許証(新卒の方は成績証明書)を郵送ください。なお、選考日・応募先については本院HPを参照してください。※中途採用応募の場合は、事前に電話でご連絡ください。
- 応募またはお問い合わせ先
TEL: 043-222-7171
総務課人事係(内線6020) 看護部事務室(内線6610)



千葉大学医学部附属病院

詳しくは看護部ホームページから
<http://www.chiba-kangobu.jp/>

